



学園だより



富山市医師会看護専門学校

担当理事 長井正樹

広報担当 吉田尚功

渡井智代

松本美由紀

3月5日（水）、市民プラザで准看護学科第64回生、看護学科第48回生の卒業証書授与式を挙行了しました。卒業特別講演は、『地球の果ての越冬生活～チームワークの大切さ～』とのテーマで、富山地方気象台リスクコミュニケーション推進官で元南極観測隊、越冬隊長の木津暢彦先生にご講演頂きました。

卒業生を代表し、准看護学科の中林萌さん、看護学科の平野陽介さんが卒業証書を受け取りました。在校生代表が送辞を贈り、卒業生代表が答辞を述べました。ご紹介いたします。

送 辞（全文）

在校生代表 准看護学科第65回生 山下 夏実

なごり雪が静かに舞い、冷たい風の中に、ほのかに春の香りを感じる季節になりました。希望に満ちた光が差し込むこのよき日、富山市医師会看護専門学校を卒業される皆様、ご卒業おめでとうございます。在校生一同、心よりお祝い申し上げます。

先輩方の心には、学校生活でのたくさんの出会いやかけがえない思い出が

思い返されていることと思います。働きながら学校へ通うことは、本当に忙しく、たくさんの苦悩があったのではないのでしょうか。朝早くから家族のために食事を作り、仕事に向かい、帰宅すれば子供の世話や家事にと、幾つもの役割を果たされた先輩もおられたことでしょう。実習や講義、寝る間も惜しんで勉強された日々に疲れ果て「もう無理かもしれない」と思った日や、時には思うようにいかず、涙を流したこともあったかもしれません。それでもここまで来られたのは、ここで出会った仲間の存在や「看護師、准看護師になりたい」という強い思いがあったからだと思います。苦境を乗り越えこの日を迎えられる先輩方は、私たち在校生の励みであり、目標でもあります。

私たちは、准看護学科では5月から、看護学科では9月から本格的に臨地実習が始まります。自分たちの知識や技術の未熟さから心が折れてしまいそうです。そんな不安をいっぱい抱えている私たちは、実習の1日の流れ、受持ち患者さんの情報収集の方法や実習記録の書き方、事前学習の方法や指導者とのかわり方などを、先輩方から教わりました。准看護学科では学校でマンツーマンで、看護学科では直接先輩が実習している背中を追いながら、実習申し送りを受けました。先輩方が様々な参考文献を手に取り学びを深められ、一人一人の患者さんに対して真摯に向き合っておられたことが伝わりました。質問した時には丁寧に熱心に答えて下さりました。不安でわからないことだらけの私たちに「大丈夫だよ」と言ってくださった先輩方の優しい笑顔と励ましの言葉を思い出し、全員で実習を乗り越えたいと思います。本当にありがとうございました。先輩方の後に続けるよう学業に励みます。そして、先輩方のように患者

さん一人一人と向き合い、強く優しく努力を惜しまない看護師、准看護師を目指します。

皆様はこれからそれぞれの道へと歩き出されます。本校の校訓は「患者には光を看護には愛を」です。時には大きな壁にぶつかり挫けそうになっても、この校訓を思い出し、乗り越えていかれるものと信じております。

最後に皆様のご健康とご活躍を心よりお祈り申し上げお別れの言葉といたします。

答 辞（全文）

卒業生代表 看護学科第48回生 山下 亜希奈

日差しが日々やわらかくなり、春の訪れを感じる今日の良き日、私たち准看護学科31名看護学科34名は卒業の日を迎えました。本日は、私たちのために卒業式を挙げてくださり、心から感謝申し上げます。数々のご祝辞と激励のお言葉、在校生からは心温まる送辞を頂き、卒業への喜びとともに、新たな決意を胸にいたしました。

私は准看護学科から、五年間を本校で過ごしました。新型コロナウイルス感染症が急拡大している時期に入学した私たちは、緊急事態宣言に伴う休講、学校行事の中止、臨地実習の短縮・縮小など、多くの影響を受けました。看護を学ぶことへの期待を抱きながらも、できないことに対するもどかしさや焦りを感じる日々が続きました。三年前看護学科に入学したときも、まだ事態は収束せず一年生の思い出の多くはリモートでの授業や活動です。

学生交流会も例年のような他校との交流はかないませんでした。私たちはダンスを生中継することとなり、授業の後教室で練習を重ね準備を進めました。発表当日はみんなでジーパンに白いTシャツと服装を合わせてダンスを踊り、一致団結することができました。二年生の秋には行動制限の緩和により研修旅行が再開し東京を訪れることができました。これまで行事の中止や様々な行動制限があった私たちにとって、一年間の臨地実習を目前に、仲間との絆をより深める機会となりました。ホテルでのフレンチ料理のマナー講習では、美味しい料理を楽しみながら、教養を学びました。災害体験施設では、災害時における看護の役割と責任について深く理解することができました。自由時間には友人とディズニーランドに行き、ホテルでは夜更かししながら語り合ったことは思い出です。

一年間の臨地実習では、病棟へ行くと、感染者の発生より急遽病棟が変更されたり、学内実習にされたりすることもありました。成人看護学実習のカンファレンスを予定していた最終日、病棟への立ち入りが禁止になったことがありました。その時、病棟師長・指導者より「院内でリモートカンファレンスをしましょう。」とご提案を頂き、最後まで実習をやり遂げることができました。様々な対策を講じながら学生の学びを親身になってサポートしていただきました。

老年看護学実習では、ベッド上で足浴の援助で、患者様の関節の拘縮への配慮が足りず苦痛を与えてしまうことがありました。そんな時でも「大丈夫、これも勉強だよ。」と患者様が励してくださいました。指導者は身体機

能のアセスメントの仕方や、次はどのような体位で行えばよいか、負担の少ない物品選びなどを一緒に考えてくださいました。再度足浴を実施した際には「ありがとう、気持ちよかった。」と患者様の笑顔を見ることができました。教科書通りの援助ではない、患者様一人一人に合わせた援助の重要性を学びました。また、患者様への活動性の向上を目標とした看護計画を立てた際、指導者より「その援助は患者さんの望む生活なのか」と投げかけられました。私は患者様の思いよりも自分の価値観で看護を考えていたことに気づきました。患者様の生活背景を知り、これからの生活への思いをくみ取り、一緒に考え、その人らしい生活が送れるようにすることが大切なのだと学びました。 厳しい状況の中で、私たちが学びを深められるように試行錯誤してくださった先生方、感染症の終息が見えず、家族の面会も中止されている中 私たち学生を受け入れて下さった実習病院 ・ 施設の皆様、学びの機会を与えてくださった患者様に深く感謝を申し上げます。学生生活を振り返ると、学業と家庭の両立が難しく、思い悩んだこともたくさんありました。

実習期間中は、翌日の看護計画を立てるために調べ物をして、少しでも早く記録を完成させたくて、子供たちの話を聴く時間も惜しいと思い「忙しいから今度ね。」と子供たちに我慢をさせることが辛かったです。落ち込む私に声をかけ、話を聴いてくださった先生からは、「五分でもいいから子供の話を聴いて、ぎゅっと抱きしめてあげるだけでいいんだよ。」と励まされ、その言葉に救われたのを覚えています。学生の中には同じように家庭での役割をこなしながら頑張る人、仕事と両立しながら頑張る人がいて、みんなで悩

みを共有し、励まし合いながら共に乗り越えてきました。先生方や友人たち、そして何よりも家族の存在に支えられた学生生活でした。在校生の皆さん、これから様々な試練に直面することがあると思います。躓いたり悩んだりしたときにはクラスメイトや先生方、家族の支えを忘れず、感謝の気持ちを持ちながら、有意義で楽しい学校生活を送ってください。私たちはこれからそれぞれの道を歩みます。この学校の卒業生であることに誇りを持ち、地域の期待と信頼に応える看護師を目指して努力を重ねてまいります。最後になりますが、ご来賓の皆さま、校長先生をはじめ諸先生方、関係者の皆さま、そして在校生の皆さまのご健康とご多幸をお祈りし、答辞とさせていただきます。
<卒業証書授与>



准看護学科



看護学科

<送辞>



<答辞>



<記念品贈呈>



准看護学科



看護学科

<卒業生からの花束贈呈>



准看護学科



看護学科

<卒業特別講演>



木津暢彦先生 「地球の果ての越冬生活～チームワークの大切さ～」

《学校行事》

4 / 2 (水) 始業式

4 / 9 (水) 入学式 (市民プラザ)

㊦ 3年生臨地実習、老年看護学実習開始

在宅看護論実習Ⅰ (訪問看護ステーション) 開始

4 / 22 (火) 自衛消防訓練

4 / 25 (金) 前期分授業料納付締切り

5 / 1 (木) ㊦ 2年生内科診察

5 / 2 (金) ㊦ 2年生校外交流活動

5 / 8 (木) ㊦ 1年生内科診察

5 / 9 (金) ㊦ 1年生校外交流活動

5 / 13 (火) ㊦ 2年生臨地実習開始

5 / 22 (木) ㊦ 1・2年生内科診察

5 / 27 (火) ㊦ 2年生保育所実習開始

5 / 28 (水) ㊦ 3年生在宅看護論実習Ⅱ (保健所)